

評議員会 議事録

日 時：2000年1月29日（土） 11時00分～15時00分

場 所：東京大学理学部3号館 303教室

出席者：今井、尾崎、小杉、佐藤、祖父江、半田、松田、上野、岡村、奥田、小山、須藤、福島 以上13名

欠席者：家、池内、古在、杉本、谷口、長谷川、羽部、古屋、井上、海部、加藤、小平、鈴木、高原、福江、観山、吉田 以上17名

有効委任状提出者：杉本、谷口、長谷川、羽部、井上、海部、加藤、鈴木、福江、観山 以上 10名。

出席者

他に理事会から大石理事、立松理事、紀伊理事、有本理事、渡部天体発見賞選考委員会委員長、中井研究奨励賞選考委員会委員長が出席

議事に先立ち、議長に半田利弘氏を、署名人に佐藤勝彦氏、福島登志夫氏を選出した。

議事の経過及び結果

- 前回（1999年10月8日）の評議員会議事録が報告され、承認された。早川幸男基金選考結果、IAU京都総会記念基金選考結果の報告があった。また、秋季総会で発表することが決定された「独立行政法人化に関する学会声明文」に関して今井評議員から今後の取り組みについての質問があった。記者会見を開く、学会Webページに載せる、他の学会にも伝達するなど、より国民に訴えるような取り組みをするべきであるとの意見が出された。
- 2000年度春季年会で表彰する天体発見賞、林忠四郎賞、欧文報告論文賞の受賞候補者がそれぞれ渡部天体発見賞選考委員会委員長、奥田欧文報告論文賞選考委員長より下記のように報告され、承認された。

<p>新天体発見賞　：山本稔氏、多胡昭彦氏、青木昌勝氏、高見沢今朝雄氏、串田麗樹氏</p> <p>天体発見功労賞：串田麗樹氏</p> <p>林　忠四郎賞　：中島　紀氏</p> <p>欧文報告論文賞：小山勝二氏他7名</p> <p>Discovery of Non-Thermal X-rays from the Northwest Shell of the New SNR RX J1713.7-3946 : The Second SN 1006 ? PASJ, vol. 49, pp. L7 - L11 (1997)</p>
--

なお、研究奨励賞については、中井研究奨励賞選考委員会委員長から研究奨励賞候補者名とその表彰対象となった研究のあらましが報告された。しかし、この研究は共同研究として遂行されたものであることから、当該研究に対する候補者の貢献度等を確認することが適当であると判断されたため、結論を次回に持ち越した
また天体発見賞に関連して渡部天体発見賞選考委員会委員長より、1999年1月の評議員会にて天体発見賞選考委員会に検討を依頼した新天体の定義の再検討及びその定義に該当しない多数の天体を継続的に発見している場合の取扱いの件について、委員会での検討結果の報告が行なわれた。現状の新天体の定義には当てはまらないが観測量や発見数が多い場合や、長期間にわたるデータの積み重ねが天文学の発展に大きく貢献した場合なども表彰対象とするべきではないかとの報告であり、選考委員会でさらに議論を積み重ねて7月の評議員会までに結論を出し、必要ならば10月の秋季総会で細則の改訂等を行なうこととした。さらに欧文報告論文賞の推薦数が1件しかなかったことに関連して、推薦数を増やす方策として、推薦する際の精神的な負担を軽減する策を取る、推薦された候補以外にも数値化されたデータなどを元に学会としての推薦分を追加するなど具体的な方法論も提案され、これらに関して賛否両論からの意見交換が行なわれた。

- 1999年度事業報告について大石庶務理事より説明が行われ、質疑応答の後承認された。
- 1999年度収支決算報告・監査報告について立松会計理事より説明が行われた。質疑応答ののち承認された。これに関連してIAUアジア太平洋地域会議を数年以内に日本で開催する可能性が高く、その際にはそのための旅費を確保しなければならないことを考慮し、IAU京都総会記念基金の設立趣旨を踏まえた上でIAUアジア太平洋地域会議の開催が正式に決定するまで当基金の使用を当面凍結することとし、会員への通知等は理事会に一任することとした。
- 第18期学術会議会員候補者の選挙結果の報告が大石庶務理事よりあった。続いて選挙結果を尊重した学会から推薦する会員候補者及び推薦人の選定を行い、候補者として池内了氏と小平桂一氏、また推薦人として岡村定矩氏、福島登志夫氏、予備者として柴田一成氏が選定された。次回の選挙からは、学術会議から依頼される推薦すべき候補者数を踏まえた選挙を行なうこと、また、学術会議候補者推薦規定の調査を理事会に依頼することとした。
- 改訂を進めている各委員会内規の改定案が大石庶務理事より提示され、説明があった。意見交換の後、「委員会等に関する内規」を「共通内規」とする、第1条に記述された委員会に対してのみ適用されることが分かる表現に修正する、また、第6条を委員の解任に関する条文とし内容を定款22条もしくは28条を参考にした文言にするという条件で、承認された。
- PASJの運営状況、投稿料半額措置の期間について

有本理事より資料が提出され説明があった。PASJの投稿数は大幅に増加し、既に150報と近年の中で最高を記録している。その理由としては、電子メールによって投稿できること、投稿料を半額にする期間を設けたこと、日本の天文雑誌を存続させたいこと、が挙げられた。2000年度には電子版PASJの本格運用を開始し、年間1000から1100ページを目標としている。投稿料半額化キャンペーンは当初の方針通り2000年12月31日で終了することが示され、承認された。

その他

- （1）民間の賞及び研究助成金の推薦を学会としてより多くするべきであるとの古在評議員からの意見、推薦がない場合は理事長、副理事長、庶務理事で相談して推薦者を出してはどうかとの考えが尾崎理事長より紹介され、その方針を支持することとした。
- （2）春季年会や年会で初めて行なうジュニアセッションの準備状況について大石庶務理事から報告があった。
- （3）平成13年度からの科研費制度が改訂され、科研費が使用可能になる時期が早まることとなった。科研費審査員候補の選定のスケジュールがこれまでより約半年早くなり、4月末日までに候補者選考結果をまとめる必要が生じたことが、福島評議員より報告された。
- （4）IAU総会の申し込み締め切りが2月15日であることが福島評議員より報告され、周知徹底の依頼があった。

天文学会ホームページに戻る